

家庭生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度の育成

－第6学年「暑い季節を快適に」の実践を通して－

四国中央支部

1 研究の視点

- (1) 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実
- (2) 子どもの気付きを生かし、実生活との関連を図った問題解決的な学習の工夫

2 実践事例

- (1) 題材名 暑い季節を快適に
- (2) 題材の目標

- 涼しい住まい方や着方に関心をもち、快適な過ごし方について考えようとする。
- 涼しい住まい方や着方について課題を見付け、観察や実験を通して、自分なりに快適な住まい方や着方について考えたり、方法を工夫したりできる。
- 涼しい住まい方や衣服の着方に関心をもち、快適に過ごすための工夫をすることができる。
- より快適で、涼しい住まい方について理解することができる。

- (3) 題材設定の理由

- 本学級の児童（25名）は、明るく素直であり、落ち着いて学習に取り組むことができる。また、家庭科学習への関心は高く、特に調理や、生活に役立つ物の製作など実習への関心が高い。朝食のおかずづくりでは、野菜の大きさをそろえて切ったり、火加減に気を付けて炒めたりしながら、協力し、意欲的に取り組むことができた。しかし、授業で身に付けた技能や工夫点を、家庭で進んで実践しているとは言えない。快適に過ごすための住まい方や衣服の着方については、5年生の「寒い季節を快適に」で学習している。衣服の形や布の種類、重ね着の仕方を変えることで、衣服を着た時の温かさが違うことを知り、着方を工夫すると暖房の使い過ぎを防ぐことができることを学習した。また、教室、廊下、体育館の温度、湿度、照度を測り、自分たちが感じる快適さはそれらが関わっている事に気付いた。ドアや窓の開閉の頻度や採光の仕方、カーペットやカーテンの素材を変えることで、冬の生活をより快適に過ごす工夫ができることを学習した。しかし、それらを自分の生活に生かしたり、日頃から意識したりできている児童は少ない。下のアンケート結果からも分かるように、快適に過ごすための工夫を知っているものの、それを実践しているとは言えない。また、安易に暖房器具に頼る傾向もある。

アンケート（複数回答）

- 1 寒い日を快適に過ごすための工夫を知っていますか。
 - ・ 重ね着をする。（14名）
 - ・ 毛布やカーペット、カーテンを厚く長いものに変える。（4名）
 - ・ 厚く、ふわふわとした生地、襟元や袖口が閉まっているものに変える。（5名）
 - ・ 暖房と換気をする。（8名） ・ 暖色系の服を着る。（7名）
- 2 昨年度の冬を快適に過ごすために何を実践しましたか。
 - ・ 重ね着をする。（11名） ・ 暖房器具を使う。（4名）
 - ・ 服の素材、形を変えた。（6名）

- 本題材は、学習指導要領「B衣食住の生活」の（4）「衣服の着用と手入れ」のア（ア）「衣服の主な働き、日常着の快適な着方」、（6）「快適な住まい方」のア（ア）住まいの主な働き、季節の変化に合わせた生活の大変さや住まい方」を関連させて扱う構成としている。また、C「消費生活・環境」の（2）「環境に配慮した生活」とも関連を図っている。ここでは、快適な住まい方や衣服の着用の学習を通して、身の回りの快適さへの関心を高め、その大切さに気付くとともに、住まい、衣服に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、住生活や衣生活をよりよくしようと工夫する能力、実践的な態度を育てることをねらいとしている。衣服は人

間にとって、最も身近な環境であり、住まいは、それを更に外側から取り巻く環境である。衣服と住まいは、相互に関連しながら私たちを取り巻く環境をつくっている。そこで、生活を総合的に捉え、夏をいかに涼しく快適に過ごせるかを、身近な住まい方、衣服の着方から考えさせたい。生活状況に応じて自分に合った工夫をし、実践することができる子どもを育てていきたいと考え、本題材を設定した。本題材は、中学校「C 衣生活・住生活と自立」の学習へとつながる。

- そこで、題材導入時に生活全般から、暑い季節の暮らしの工夫を見付けさせ、便利さを優先してしまう快適さについて改めて考え直させたい。また、家庭での暑さ対策を調べさせ、学校でも実践してみたり、簡易実験を行ったりすることで実感を伴った理解を促したい。本時では、前時までに学習した涼しい住まい方や着方、また、家庭での実践の中から「今年の夏を涼しく快適に過ごす方法」を考えさせ、それぞれのグループに発表させる。その際、前時までの学習の振り返りができるように、ホワイトボードに学習の様子や実験結果などを掲示する。個人の考えを持ち寄り、グループでキャッチコピーや川柳などを決め、その実践方法を発表することで、学級全体にアピールさせたい。教科書の「夏のエコ生活」についても気を付けるよう呼び掛け、環境に配慮した快適さを考えさせる。また、実験や生活体験、前時までの学習で気付いたことから考えを深めさせ、実践に基づいた発表とさせたい。それぞれのグループの発表を聞いた後は、自分の家庭でできそうな暑さ対策法を選ばせ、家族へのお勧め文を書かせ、事後指導での家庭実践へとつなげたい。

(4) 指導と評価の計画（全8時間）

時間	学習内容	評価規準と評価方法			
		家庭生活への関心・意欲・態度	生活を工夫し創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
1	○ 暑い季節を快適に過ごす住まい方を考えよう ・「快適さ」について捉え直し、季節に合った快適さを考える。	暑い季節に合わせた生活の仕方に関心をもち、快適な住まい方について考えようとしている。			
2	○ 涼しい住まい方を工夫しよう ・すだれや日よけを使う。 ・打ち水をする。 ・風鈴を使う。 ・冷房器具の使い方を考える。	涼しい住まい方や着方に関心をもち、快適な過ごし方について考えようとしている。	涼しい住まい方について課題を見付け、自分なりに快適な住まい方について考えたり工夫したりしている。	快適な住まい方に関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	涼しい住まい方や着方について理解している。
1	○ 涼しい着方を工夫しよう ・通気性や吸収性、吸湿性を調べる。 ・衣服の色による体感気温の変化を調べる。	衣服の働きや日常生活の着方に関心をもち、気温や季節の変化、生活場面に応じた着方をしようとしている。	涼しい着方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。	日常着の着方の基礎的・基本的な技能を身に付けている。	衣服の保健衛生上の働きが分かり、気温や季節に応じた着方について理解している。

1 本時	○ 快適な過ごし方について考えよう ・今年の夏を快適に過ごす方法を考え、発表する。	快適な住まい方や着方が分かり、家庭実践に生かそうとしている。	涼しい住まい方や着方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。		
3	○ 洗濯しよう ・日常着の手入れの仕方を知る。 ・手洗いの洗濯を実践する。	衣服の手入れに関心を持ち、衣服を大切に扱い、気持ちよく着るために洗濯しようとしている。	日常着を点検し、課題を見付け、気持ちよく着るための手入れについて考えたり自分なりに工夫したりしている。	手洗いを中心とした洗濯ができる。	手洗いを中心とした洗濯の仕方について理解している。

(5) 本時の学習

ア ねらい

環境に配慮した涼しく快適な過ごし方について考え、家庭実践に生かそうとする。

イ 準備

ワークシート ホワイトボード

ウ 展開

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 (○) と 評価規準 (◎) 【評価方法】
1 前時までの学習を振り返る。	○ 涼しい住まい方や着方を学習してどんなことに気付きましたか。 ・風を通すようにしたり、風鈴を使ったりすると涼しく感じます。 ・日よけやすだれなどを使うと涼しく感じます。 ・布の種類や色によって、涼しく感じる感じ方が違います。	○ 5年生の学習と関連させ、季節に応じた過ごし方についてもふれ、対比させて考えさせる。
2 学習のめあてを確認し、涼しく快適な過ごし方を考える。	「今年の夏を涼しく快適に過ごそう選手権」をしよう ○ ワークシートに自分が考える涼しく快適に過ごす過ごし方を書きましょう。 ・汗をよくかくから、吸水性の高い布地の服を着るようにしよう。 ・首に氷を入れたタオルを巻いて過ごしているよ。 ○ グループで、話し合しましょう。 ・エアコンをつけっぱなしにせず、着るものも工夫しよう。 ・打ち水をして風鈴をつるそう。 ・冷たい物を食べるのもいいね。	○ ワークシートに、エコチェックの項目を作り、自分の快適な過ごし方が環境に配慮しているか考えさせる。 ○ グループで、キャッチコピーや川柳と実行方法を考える際、前時の学習や生活体験から、発表できるよう、声を掛ける。 ◎ 涼しい住まい方や着方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 【創意工夫 発表内容】

<p>3 グループで発表し合う。</p>	<p>○ それぞれのグループで話し合った事を発表しましょう。発表を聞く中で、自分の家族にお勧めの涼しく過ごす方法を見付けましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打ち水と風鈴で、風通し、涼しさ2倍！ ・着方を工夫し、快適な夏到来！ ・冷房機ばかりに頼らず打ち水を。 	<p>◎ 快適な住まい方や着方が分かり、家庭実践に生かそうとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度 ワークシート】</p>
<p>4 自分の家庭でできるような事を発表しよう。</p>	<p>○ 家族にお勧めの涼しく過ごす方法と選んだ理由を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃんやおばあちゃんに風鈴の音の清涼感を勧めたいな。 ・洋服を買う時は、生地の手触りも確かめて買うようにしよう。 	<p>○ 家庭住宅環境による実践の違いに配慮し、できることを続けて実践していけるよう声を掛ける。</p>

(6) 活動の実際

ア 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実

本題材では、暑い季節を快適に過ごすための工夫を生活全般の中から子どもに考えさせることから学習を始め、気付いた工夫点を体験の中で確認させながら、学習を進めるようにした。

導入時に子どもから出た意見には、うちわの携帯やすだれやよしずの設置、風鈴の使用、夏服の着方の工夫、冷房機の使用の工夫、食で感じる涼しさなど、多方面からの気付きがあった。

すだれやよしずと風鈴は、教室テラスに設置することで体感の違いを実感させた（写真1）。また、窓の開閉条件を変えて、風通しや湿度を比べることで快適に過ごすための工夫を生活の中で考えることができた。よしずやすだれは、家庭では使用しない児童もいたが、実際に学校で使用することで、通風に加え、太陽の光を遮ることで涼しさを感じることを実感できた。

また、夏服の着方の工夫では、まず、自分が涼しいと感じる私服を体育の時間に着用して運動した（写真2）。

体操服よりも涼しく感じた児童が多かったが、生地や色、形などに違いがあり、どの夏服が涼しく感じるかは分かりにくかった。

そこで、生地の違いによる涼しさの感じ方の違いが分かるよう、通気性、吸水性、吸湿性について生地の特徴を知る実験をした。綿、麻、デニム、ポリエステル、テトロンを使い、それぞれの生地の特徴をつかむことで、夏服の選び方によって快適に過ごせることを感じ取った（写真3～5）（資料1）。

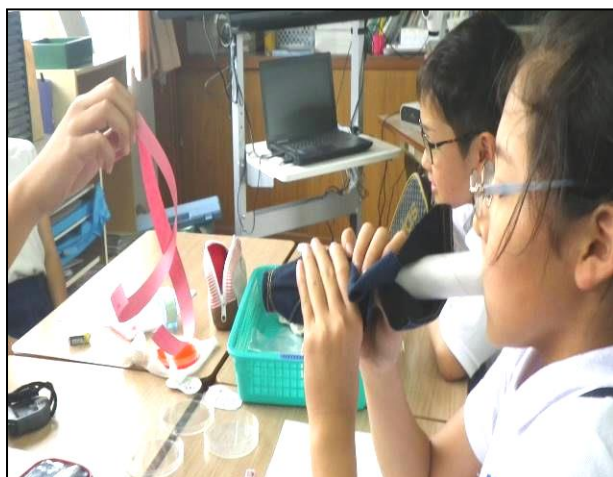


〈写真1 すだれやよしずを使って〉



〈写真2 体育の様子〉

生地の特徴を知る実験の様子



〈写真3 通気性の実験〉



〈写真4 吸湿性の実験〉



〈写真5 吸水性の実験〉

暑い季節を快適に
6年 組

布の素材を比べよう!!

〇通気性は?

布の種類	様子
ポリエステル	風通しが悪かった。
コットン	風通しが良かった。

〇吸水性は?

布の種類	様子
ポリエステル	はじいた。
綿	水分を吸収した。

〇吸湿性は?

布の種類	様子
ポリエステル	暑い(むしろ暑い、汗が乾かない)感じだった。
綿	涼しい感じがした。

何を着て運動しましたか。
色 赤色
部 部活用Tシャツ
素材

体感値を比べてどう感じましたか。
涼しく感じました。
体感値が低かったです。汗が乾かなくて暑い感じがした。
汗をかいた後、服が乾かなくて暑い感じがした。
汗をかいた後、服が乾かなくて暑い感じがした。

〈資料1 実験ワークシート〉

イ 子どもの気付きを生かし、実生活との関連を図った問題解決的な学習の工夫

本時までの実感を持った理解を促す活動を、本題材での基礎的な理解であると捉え、本時では、それらから、今年の夏を涼しく過ごす方法としてグループでキャッチコピーや川柳にまとめ発表する活動とした。既習内容をすぐに振り返ることができるよう、教室前にホワイトボードで掲示した(写真6)。

グループの話合いでは、川柳やキャッチコピーに加えて、実行方法や「それでも涼しくない時は・・・」とアピールポイントを入れ工夫させた。次のような発表内容となった(資料2)。



〈写真6 題材前半の振り返り〉

よしずとすだれで、日光シャットアウト!!

よしずやすだれを窓にかけ、涼しい風を感じよう。まだ、暑いときはうちわを使ったり、打ち水をしたりすると涼しく感じます。まだまだ暑いときはそうめんやスイカ、かき氷もお勧めです。 3班

冷房より、エコなうちわで涼しさアップ!

すぐに冷房を使わずうちわを使おう! それでも暑いときは、冷房で部屋を冷やしてからうちわを使うとエコ生活になります。 5班

夏野菜 水分いっぱい 体ひやそう

夏野菜カレーを食べて、汗をたくさん出して、体を冷やしましょう。食欲もわくよ。 6班

〈資料2 グループの発表内容〉

グループ発表を聞く際には、「家族にお勧めの涼しく生活できる方法を選ぼう」と目的意識をもたせた（写真7）。うちわや風鈴の利用、食べ物での工夫など、手軽にできる工夫点を選ぶグループが多かった。夏服の着方に関する工夫は、グループ発表では出なかったが、学習全体の感想では、してみたい工夫点として上げている児童もいた（資料3）。



〈写真7 グループ発表〉

授業の終末では、冷房機を使わないことがエコ生活に繋がるのではなく、冷房機の温度の設定の仕方や扇風機との併用でエコ生活になることも押さえた。

夏休みの課題として出した家庭での手伝いの一つに、散水に加えた打ち水を取り上げ、実生活の中で実施している様子が見られた。また、夏休みの生活の中で、冷房機の設定温度に気を付けたり、うちわや扇風機と併用したりしようとした様子、また、夏休み中に着用する服の素材に気を付けていた様子も見られた（資料4）。

4 涼しい住まい方や着方を学習した感想を書きましょう。

私は、いつも夏は、すてきな服なら何でもかいて思って、たいてい、服の種類や色で涼しく感じるとか、思っていた。家は、すてきなエアコンをつけていると、きがあるの、今年は、エアコンで快適な夏にした。おうちの時から、エコ生活がはじまり、協力して、暑い日は、エアコン、7-11で、着る服も選ぶ。着る服も選ぶ。

〈資料3 ワークシート〉

生活に生かそう

料理、そうじ、洗たくなどの、自分が取り組んだ家庭の仕事、下の記録にチェックして、ふり返りましょう。

実行した日	1回目 (7/28)	2回目 (8/5)	3回目 (8/12)	4回目 (8/19)	5回目 (8/21)
打ち水・水やり	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
もみ洗い・干す	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
朝食作り	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
食器洗い	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

すすんでした○ 言われてした○ しなかった△

・仕事でくふうしたことや感想
四つのお仕事に挑戦したけど、特に難しいのはお風呂です。お風呂の掃除は、お風呂の掃除機で洗うのはとてもいいです。お風呂の掃除機で洗うのはとてもいいです。

・家族からの感想
いろいろとお手伝いして、お風呂の掃除機で洗うのはとてもいいです。お風呂の掃除機で洗うのはとてもいいです。

〈資料4 夏休みの課題〉

3 成果と課題

導入時に、生活全般から涼しくなる方法を考えたことで、住まい方や衣服の選び方だけでなく、食べ物や持ち物など多方面から涼しくなる方法を児童から引き出すことができた。涼しくなる住まい方については、各家庭による経験の差があり、教科書や写真での説明では実感できない児童もいた。そこで、すだれやよしず、風鈴、い草マットなどを学級で使用することで、体験から理解につなげることができた。また、夏服の着方についても、自分たちが普段着用している私服の中から涼しい服を選び、体育の授業で着用することで、開口部の具合で涼しさを感じることや、汗の吸い取り方の違いについて実感を伴った学習ができた。生地の違いを感じる実験でも、生地によって涼しさや快適さの感じ方に違いがあることを理解することができた。

道具の使用や生地の実験から学んだことを、「今年の夏を涼しく過ごす方法」としてグループで考える段階では、各グループの発表を聞いて家族へのお勧めの方法を決めようと目的意識をもたせたものの、実際暑くなったのが夏休み頃であり、時間差ができてしまったことで、家庭での実践には差が出てしまった。また、家庭での実践には保護者の協力と理解が必要なことも多く、家庭での実践には限度があった。家庭科学習の実践は家庭との連携とともに、長期的に継続して取り組む必要があると考える。そのためにも、家庭科で学習した内容を学級通信などで定期的に各家庭へ知らせることも必要だと思った。今後は、系統性をもった学習計画を立て、各家庭への情報発信や児童の家庭生活の現状に関する情報収集を行う中で、児童が家庭科の要素を様々な生活場面で意識することができるような取組をしていくことが大切だと感じた。